

SICORP

Strategic International Collaborative Research Program

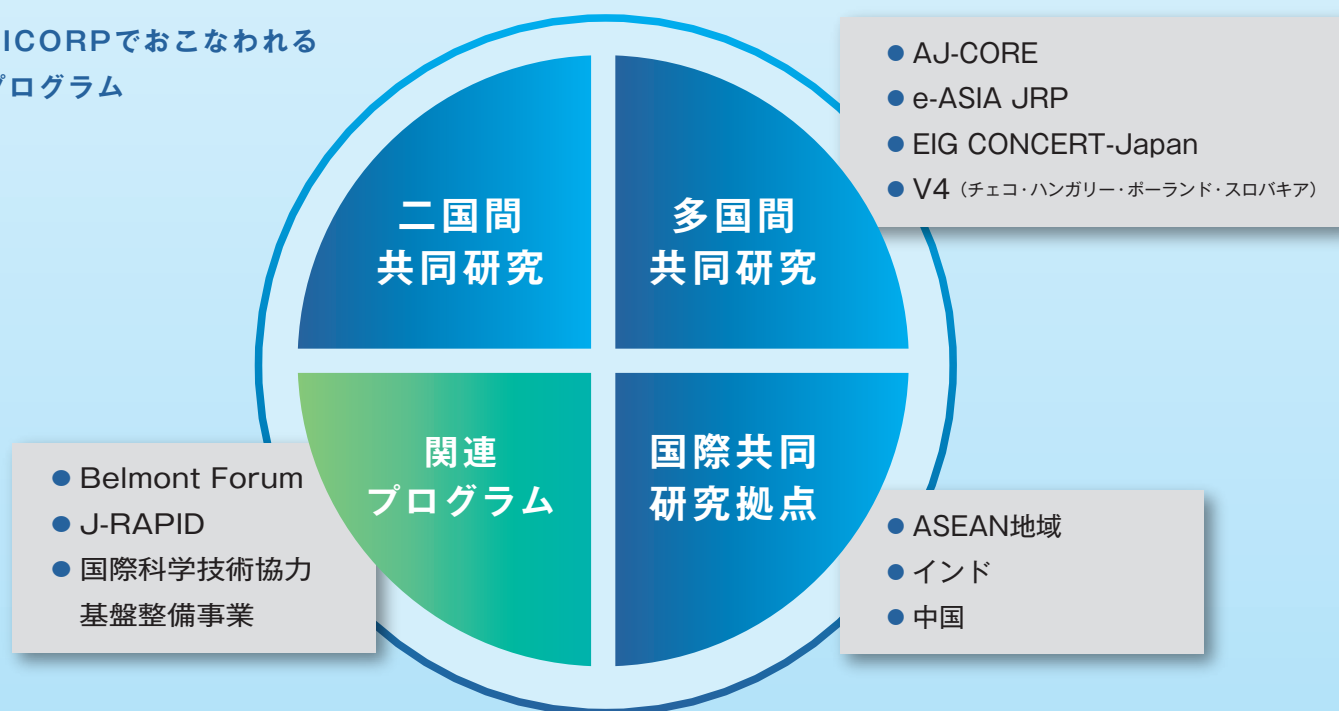
(戦略的国際共同研究プログラム)



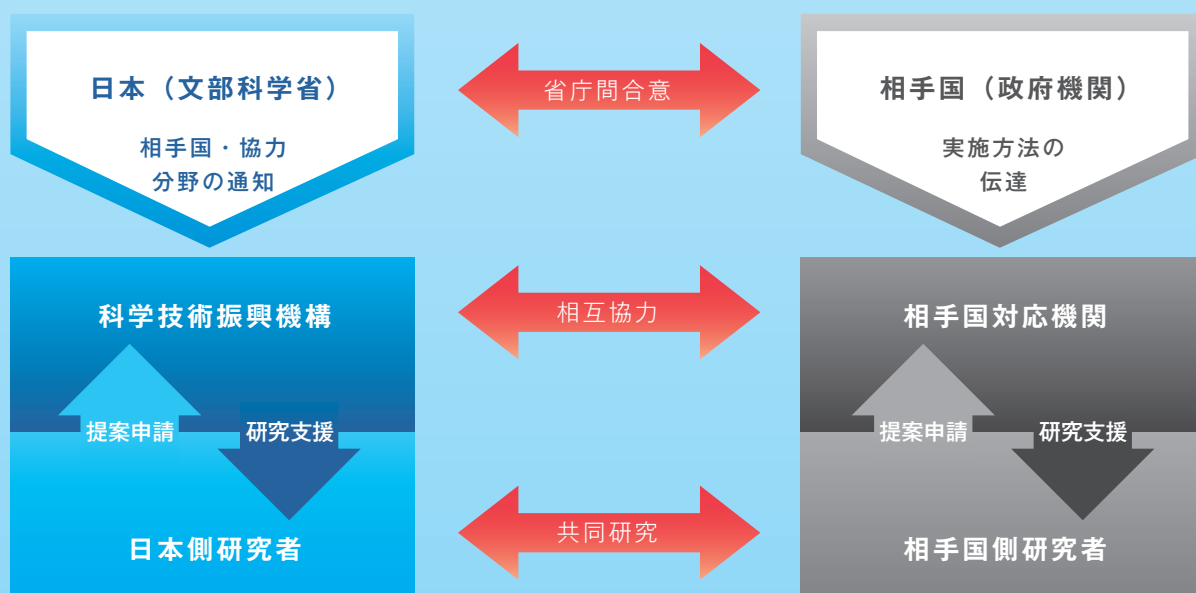
本プログラムでは、省庁間合意等に基づき文部科学省が特に重要なものとして設定する相手国・地域、分野において、相手国・地域のファンディング機関と連携し、イコールパートナーシップに基づく、多様な国際共同研究を支援しています。

相手国の研究支援機関と連携して、戦略的な国際共同研究を実施することにより、単一国で解決できない国際共通の課題の解決や、国際連携による我が国の科学技術力の強化に資する成果を得ることを目的としています。

SICORPでおこなわれる プログラム



事業の仕組み



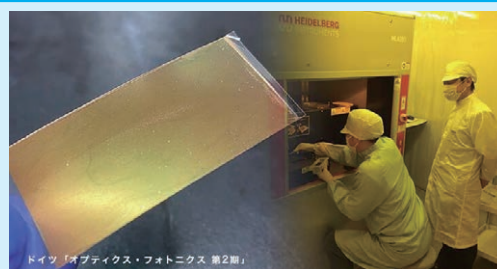
多国間共同研究の場合は、プログラムにより異なります。詳細は、Webサイト又はJST国際部へお問い合わせ下さい。

二国間

▶ 研究期間：3～5年 研究費：600万～1億円／課題・年 開始：平成21年度

協力相手国等との省庁間合意による 国際共同研究を推進する研究開発プログラム

省庁間合意に基づいて設定した研究分野において、相手国・地域のファンディング機関と連携しながら、イコールパートナーシップによる、日本の科学技術力の強化につながる国際共同研究課題を募集・支援します。



ドイツ「オブディクス・フォトニクス 第2期」

課題名	【ドイツ】 プラズモニック金属ナノ構造を用いた高感度・高機能性SERS/OW/LSPR/バイオセンサーの開発
研究代表者	民谷 栄一 産総研・阪大先端フォトニクス・バイオセンシングオープンイノベーションラボラトリー ラボ長

AJ-CORE

Africa-Japan Collaborative Research

▶ 研究期間：3年 研究費：600万円／課題・年 開始：令和3年度

日本-南アフリカを核とする3ヶ国以上の 日・アフリカ多国間共同研究プログラム

AJ-CORE (Africa-Japan Collaborative Research) は、日本・南アフリカを核とする3ヶ国以上の日・アフリカ多国間共同研究プログラムです。日本側はJST、南アフリカ側はNational Research Foundation (NRF) が支援します。



e-ASIA JRP

The East Asia Science and Innovation Area Joint Research Program

▶ 研究期間：3年 研究費：1,170万円／課題・年 開始：平成24年度

イコールパートナーシップで アジア地域共通の課題解決を目指す

アジア地域において科学技術分野の研究交流を加速することにより研究開発力を強化するとともに、アジア地域が共通して抱える課題の解決を目指します。相手国ファンディング機関と連携しながらイコールパートナーシップにより、材料(ナノテクノロジー)・代替エネルギー・農業(食料)・防災・環境(気候変動、海洋科学)・イノベーションのための先端融合分野の研究分野で多国間協力を推進します。

Fields of Cooperation



<https://www.the-easia.org/jrp/>

EIG CONCERT-Japan

Connecting and Coordinating European Research and Technology Development with Japan

▶ 研究期間：3年 研究費：600万円／課題・年 開始：平成25年度

日本と欧州諸国との間の科学技術協力関係を発展させる

科学技術イノベーション分野における日本と欧州諸国による共同公募を中心とした協力活動を行う多国間プログラムで、社会のための科学の発展と日欧間のネットワーク強化を目指します。EUの研究・技術開発フレームワーク・プログラム (FP7) における国際協力活動プロジェクトCONCERT-Japanの後継として2015年に設立されました。



<http://www.concert-japan.eu/>



稲作と、食料及びバイオマスの生産技術

課題名	①植物病原体：環境条件の変化の下における真菌を用いた作物の収量と品質の向上法 ②気候変動下における穀物資源の利用効率化に関する包括研究
研究代表者	①伊藤 紀美子 新潟大学 教授 ②三ツ井 敏明 新潟大学 教授

国際共同研究拠点

▶ 研究期間：5年 研究費：3000万～1億円／課題・年 開始：平成27年度

相手国に拠点を形成し、成果の現地社会普及を図る

外交上の観点から日本にとって重要なASEAN地域、インド、中国において、従来の国際協力により得られた成果やネットワークの実績を活かし、地球規模課題・地域共通課題の解決やイノベーションの創出、我が国の科学技術力の向上、相手国・地域との研究協力基盤の強化を目的として、日本の「顔の見える」持続的な共同研究・協力を推進します。



東京大学フィールドフェノミクス研究拠点に構築したリモート共同開発環境：インド側との遠隔操作により、Edge-Computing ツールキット開発を実施

課題名	データ科学で実現する気候変動下における持続的作物生産支援システム
研究代表者	日本 ▶ 二宮 正士 東京大学 大学院農学生命科学研究科 特任教授 インド ▶ ウダイ・デサイ インド工科大学 ハイデラバード校 名誉教授

その他 | 関連プログラム

■ ベルмонт・フォーラム (Belmont Forum)

▶ 研究期間：3～5年 研究費：500万～1000万円／課題・年 開始：平成24年度

世界各国が結集した地球環境変動研究への支援

地球環境変動研究へのファンディングを行う世界の主要先進国・新興国のファンディング機関の集まりであり、国際的な資金・研究者を動員し、連携することにより、人類社会の持続可能性を阻む重大な障害を取り除くために必要とする環境関連の研究を加速させ、SDGsへ貢献することを目的として、フューチャーアース・イニシアティブとも連携しています。



<http://www.belmontforum.org/>

■ 国際緊急共同研究・調査支援プログラム (J-RAPID)

▶ 研究期間：6ヶ月～1年間 研究費：数100万円程度／課題 開始：平成23年度

大災害発生直後の研究・調査で得られた教訓を被災地の復興と将来の防災へ役立てる

J-RAPID は自然災害や人的災害など不測の事象が発生し、データの取得、問題の解決のために緊急に研究・調査を実施する必要がある場合に、機動的にその活動を支援することを目的としています。国などが本格的な研究・調査体制を整える前に、研究機関と協働して迅速に初動的な研究・調査を支援することにより、本格研究・調査への「橋渡し」としての役割を担っています。



新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 関連

課題名	下水疫学調査による新型コロナウイルスの感染流行状況のリアルタイム監視
研究代表者	日本 ▶ 原本 英司 山梨大学 大学院総合研究部附属 国際流域環境研究センター 教授 米国 ▶ カイル・ビビー ノートルダム大学 土木環境工学・地球科学科 准教授

最新の情報は、公式Webサイトでご確認ください。

SICORP **SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS**
戦略的国際共同研究プログラム

<https://www.jst.go.jp/inter/>

国際共同研究と協力国・地域数

戦略的国際共同研究プログラム (SICORP)

※SICORPの前身プログラム(SICP)含む

42ヶ国、**594**プロジェクト

(2003 - 2021.07)

国際共同研究の流れ

省庁間の調整に基づき、

戦略的に重要なものとして国が設定した相手国・地域及び研究分野において、

イコールパートナーシップによる国際共同研究を支援します。

2021年10月時点

研究交流実績

 **SICORP** | 二国間の国際共同研究

※1：平成27年度から日本医療研究開発機構（AMED）へ移管

国・地域	研究分野	相手機関	研究期間
アメリカ	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により求められる新たな生活態様に資するデジタルサイエンス ビッグデータと災害 低炭素社会のためのメタボロミクス	米国国立科学財団 （NSF: National Science Foundation）	R3 - R5 H23 - H29 H23 - H28
アメリカ・イギリス・フランス・カナダ	非医療分野における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）関連研究	米国国立科学財団（NSF: National Science Foundation） 英国研究・イノベーション機構（UKRI: UK Research and Innovation） 仏国国立研究機構（ANR: Agence nationale de la Recherche） カナダ国立研究機構（NRC: National Research Council Canada）	R3
イギリス	海洋観測のための革新的な生物・生物地球化学センサー	英国自然環境研究会議 （NERC: The Natural Environment Research Council）	H29 - R3
イスラエル	レジリエントな社会のためのICT 第1期・第2期・第3期	イスラエル科学技術省 （MOST: Ministry of Science and Technology）	H27 - R3
カナダ	持続可能な水利用 幹細胞のエピジェネティクス ※1	カナダ自然科学・工学研究会議 （NSERC: Natural Sciences and Engineering Research Council of Canada） カナダ保健研究機構（CIHR: Canadian Institutes of Health Research）	H26 - H29 H25 - H29
シンガポール	細胞の動的計測・操作を可能にするバイオデバイスの技術基盤の開発	科学技術研究庁 （A*STAR: Agency for Science, Technology and Research）	H27 - H30
スイス	再生可能エネルギー媒体としての水素研究	スイス国立科学財団 （SNSF: Swiss National Science Foundation）	H30 - R3
スウェーデン	高齢者のための地域共同体の設計やサービスに関する革新的な対応策	スウェーデンイノベーションシステム開発庁 （VINNOVA: Verket for innovationssystem）	H28 - R3
中国	植物-微生物共生系、微生物叢の機能と制御に着目した基盤技術の創出 都市における環境問題または都市におけるエネルギー問題に関する研究 生物多様性の形成機構解明および保全のためのゲノミクス エネルギー利用の高効率化	中国国家自然科学基金委員会 （NSFC: National Natural Science Foundation of China） 中国科学技術部 （MOST: Ministry of Science and Technology） 中国国家自然科学基金委員会 （NSFC: National Natural Science Foundation of China） 中国科学技術部 （MOST: Ministry of Science and Technology）	H29 - R2 H28 - H30 H27 - H30 H25 - H27
ドイツ	水素技術 オブティクス・フォトンクス 第2期 オブティクス・フォトンクス 第1期 ナノエレクトロニクス	ドイツ連邦教育研究省 （BMBF: Bundesministerium für Bildung und Forschung） ドイツ研究振興協会 （DFG: Deutsche Forschungsgemeinschaft）	R3採択予定 R2 - R5 H30 - R3 H22 - H26
ニュージーランド	機能性食品	ビジネス・イノベーション・雇用省 （MBIE: Ministry of Business, Innovation and Employment）	H27 - H28 H21 - H25
フィンランド	高齢者のアクセシビリティおよび支援のための情報システム	フィンランドアカデミー（AF: Academy of Finland） フィンランド技術庁（Tekes） ※2018年よりBusiness Finlandになりました。	H27 - H29
フランス	分子技術 第1期・第2期・第3期 情報通信技術	国立研究機構（ANR: L'Agence nationale de la recherche）	H26 - H31 H22 - H25
ロシア	北極観測および北極域における自然利用とエネルギー資源開発のための科学技術	ロシア連邦科学・高等教育省 （MON: Ministry of Science and Higher Education of the Russian Federation）	R1 - R3
EU	高度バイオ燃料と代替再生可能燃料 災害初期対応技術 パワーエレクトロニクス 希少元素代替材料 超伝導	欧州委員会研究・イノベーション総局（EC DG RTD） 欧州委員会移民・内務総局（EC DG HOME） 欧州委員会研究・イノベーション総局（EC DG RTD） 欧州委員会研究・イノベーション総局（EC DG RTD） 欧州委員会研究・イノベーション総局（EC DG RTD）	R3 - R5 H31 - R4 H28 - R2 H25 - H28 H23 - H26

研究交流実績



SICORP | 多国間の国際共同研究

※1：平成27年度から日本医療研究開発機構（AMED）へ移管

プログラム	研究分野	研究期間
AJ-CORE (Africa-Japan Collaborative Research)	環境科学	R3 - R5
e-ASIA JRP	材料分野「マテリアルズ・インフォマティクス」	R3採択予定
	環境分野「海洋科学と気候変動」	R3採択予定
	非医療分野での新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策研究	R2 - R3
	イノベーションのための先端融合分野「水資源管理」	R3 - R5
	環境分野「自然と人間のシステムに関する気候変動の影響と解決策」	R3 - R5
	農業（食料）「アジアの動物遺伝資源の保存、改良と活用」	R2 - R4
	材料（ナノテクノロジー）「革新的材料」	R2 - R4
	防災（豪雨、洪水、地すべり）	H31 - R4
	代替エネルギー（バイオエネルギー）	H31 - R4
	材料（革新的材料のための機能性バイオナノテクノロジー）	H29 - R3
	イノベーションに向けた先端融合（電力のためのインテリジェント・インフラストラクチャ）	H29 - R3
	バイオエネルギー	H29 - H31
	防災	H28 - H31
	イノベーションに向けた先端融合（交通のためのインテリジェント・インフラストラクチャ）	H28 - H31
EIG CONCERT-Japan	感染症分野 ※1	H27 - H29
	材料（ナノテクノロジー）分野「機能性材料」	H26 - H29
	バイオマス・植物科学、ナノテクノロジー・材料	H24 - H27
	手ごろでクリーンなエネルギー源としての持続可能な水素技術	R3採択予定
SDGs達成に資する多国間研究協力(STAND)	レジリエント、安全、セキュアな社会のためのICT	R3 - R5
	持続可能な社会のためのスマートな水管理	R2 - R4
	超空間制御による機能材料	H31 - R4
	効果的なエネルギー貯蔵と配分	H30 - R3
日中韓	食料及びバイオマスの生産技術	H29 - R3
	光技術を用いたものづくり	H26 - H28
	海洋科学及び水問題等 東南アジアにおける持続可能開発	R3 - R4
	省エネルギー、防災、水循環	H25 - H27
V4 (チェコ・ハンガリー・ポーランド・スロバキア)	先端材料（第2回）	R3 - R6
	先端材料（第1回）	H27 - H30

国際共同研究拠点

国・地域	研究分野	カウンターパート機関	研究期間
ASEAN地域	環境・エネルギー、生物資源・生物多様性、防災	インド科学技術庁（DST：Department of Science & Technology） 中国科学技術部（MOST：Ministry of Science and Technology）	R2 - R6 H27 - R2
インド	ICT		H28 - R3
中国	環境／エネルギー（イノベーション拠点） 環境／エネルギー（連携プロジェクト）		R1 - R5 R1 - R3

その他 | 関連プログラム

Belmont Forum

研究分野	研究期間
土壌と地下水の持続可能な社会利用をめざして	R3 - R5
災害リスク低減とレジリエンス	R2 - R4
急速に変貌する北極システムにおけるレジリエンス	R2 - R4
海洋の持続可能性のための超学際研究	R2 - R5
科学主導によるe-インフラストラクチャーのイノベーション	H31 - R4
持続可能な社会に向けた転換	H30 - R4
持続可能な都市化に向けた国際イニシアチブ： 食料－水－エネルギーのネクサス	H30 - R3
気候予測可能性と地域間連関	H28 - H31
生物多様性と生態系サービスのシナリオ	H27 - H28
持続可能性のための北極観測と研究	H27 - H31
食料安全保障と土地利用の変化	H26 - H29

J-RAPID

支援災害名	カウンターパート機関	研究期間
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）	アメリカNSF、イギリスUKRI、フランスANR	R2
インドネシア スンダ海峡津波	RISTEKDIKT	R1
熊本地震	アメリカ、ニュージーランド、タイ、ネパール	H28
ネパール地震	ネパール人口環境省（MoPE）	H27 - H28
フィリピン台風30号（フィリピン名：Yolanda）	DOST	H26
タイ水害	NSTDA	H24
東日本大震災	アメリカ（NSF/NIH/NCAR）、イギリス（ADMLC）、フランス（ANR）、インドネシア（LIPI）	H23 - H24


 国立研究開発法人
科学技術振興機構
 Japan Science and Technology Agency

国立研究開発法人科学技術振興機構

国際部

 〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's五番町
 Tel. 03-5214-7375
<https://www.jst.go.jp/inter/>


Printed on 2021.12